※体つくり運動では，ア　体ほぐしの運動　イ体の動きを高める運動（第３学年ではイ実生活に生かす運動の計画）を合わせて単元計画を作成する場合が多いことから，単元の評価規準の例を内容のまとまりのＡ体つくり運動として作成しました。

評価規準（第１学年及び第２学年「Ａ　体つくり運動」）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識・体つくり運動の意義には，心と体をほぐし，体を動かす楽しさや心地よさを味わう意義があることについて，言ったり書き出したりしている。・体つくり運動の意義には，体の柔らかさ，巧みな動き，力強い動き，動きを持続する能力を高める意義があることについて，言ったり書き出したりしている。・「体ほぐしの運動」には，「心と体の関係や心身の状態に気付く」，「仲間と積極的に関わり合う」というねらいに応じた行い方があることについて，言ったり書き出したりしている。・体の動きを高めるには，安全で合理的に高める行い方があることについて，言ったり書き出したりしている。 ・体の動きを高めるには，適切な強度，時間，回数，頻度などを考慮して組み合わせる方法があることについて，言ったり書き出したりしている。・運動の組合せ方には，効率のよい組合せとバランスのよい組合せがあることについて，言ったり書き出したりしている。 | ○技能※「体つくり運動」の体ほぐしの運動は，技能の習得・向上をねらいとするものでないこと，体の動きを高める運動は，ねらいに応じて運動を行うことが主な目的となることから，「技能」の評価規準は設定していない。 | ・体ほぐしの運動で，「心と体の関係や心身の状態に気付く」，「仲間と積極的に関わり合う」ことを踏まえてねらいに応じた運動を選んでいる。・体の動きを高めるために，自己の課題に応じた運動を選んでいる。・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。・仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，仲間との関わり方を見付けている。・体力の程度や性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための運動を見付け，仲間に伝えている。 | ・体つくりの運動の学習に積極的に取り組もうとしている。・仲間の補助をしたり助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。・一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとしている。・ねらいに応じた行い方などについての話合いに参加しようとしている。・健康・安全に留意している。 |

評価規準（第３学年「Ａ　体つくり運動」）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識・定期的・計画的に運動を継続することは，心身の健康，健康や体力の保持増進につながる意義があることについて，言ったり書き出したりしている。・運動を安全に行うには， 関節への負荷がかかりすぎないようにすることや軽い運動から始めるなど，徐々に筋肉を温めてから行うことについて，言ったり書き出したりしている。・運動を計画して行う際は，どのようなねらいをもつ運動か，偏りがないか，自分に合っているかなどの運動の原則があることについて，言ったり書き出したりしている。・実生活で運動を継続するには，行いやすいこと，無理のない計画であることなどが大切であることについて，言ったり書き出したりしている。 | ○技能※「体つくり運動」の体ほぐしの運動は，技能の習得・向上をねらいとするものでないこと，実生活に生かす運動の計画は，運動の計画を立てることが主な目的となることから，「技能」の評価規準は設定していない。 | ・ねらいや体力の程度を踏まえ， 自己や仲間の課題に応じた強度，時間， 回数，頻度を設定している。・健康や安全を確保するために，体力や体調に応じた運動の計画等について振り返っている。・課題を解決するために仲間と話し合う場面で，合意形成するための関わり方を見付け，仲間に伝えている。・体力の程度や性別等の違いに配慮して，仲間とともに体つくり運動を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。・体つくり運動の学習成果を踏まえて，実生活で継続しやすい運動例や運動の組合せの例を見付けている。 | ・体つくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。・仲間に課題を伝え合うなど，互いに助け合い教え合おうとしている。・一人一人に応じた動きなどの違いを大切にしようとしている。・自己や仲間の課題解決に向けた話合いに貢献しようとしている。・健康・安全を確保している。 |